

ベルリン農業大臣会合 コミュニケ 2019 概要
「農業のデジタル化－将来の営農活動を見据えたスマートな解決方法」

1. 序文

- ・ 過去 50 年で、世界人口は 2 倍に、世界の農業生産は 3 倍になったが、我々は依然として、飢餓や気候変動等の課題に直面している。
- ・ 今後、農業が、持続可能性を損なわずに食料を増産するといった困難な課題を抱える中で、農業のデジタル化は、こうした課題を解決し、また農村地域の生活を変革する上で重要な役割を担う。

2. 求める行動

(1) デジタル化の可能性の特定及び活用

- ・ 農業におけるデジタル化による解決手法を探るため、ベンチャー企業や中小企業への投資促進、研究開発強化、情報交換等を促進。

(2) デジタル技術への農家のアクセスの拡大及び保護

- ・ 全ての農家がデジタル技術を活用できるよう、デジタルインフラや金融措置の整備、訓練プログラムや普及サービス拡大等を促進。

(3) データ利用の促進、データ保護及びデータ主権の確保

- ・ 今後データ利用等に関する国際基準が策定される際、農業者の利益が反映されるよう、農業関係者の検討への参画、データが相互に利用しやすくなるような仕組みの促進、知的財産権やプライバシー権の保護及び尊重等を促進。

(4) 農業及び農村部における構造変化の管理

- ・ 農村部を再活性化し、魅力あるものとするため、デジタル政策と農業政策をより密接なものとするとともに、農村部のバリューチェーンにおける官民投資等を促進。

3. 結論

農業大臣は、

- ・ 産業や社会に対し、農村にデジタルインフラの整備推進、
- ・ 農村部の人々に対する訓練プログラム等に関する意見交換、
- ・ 国内、地域及び国際レベルでのルールや自発的な合意の形成等を行っていく。